

森林整備Ⅲ

現地実習（海上の森大学実習林）

（安全管理・間伐調査）

日時：平成25年10月26日（土） 10:00～15:00

講師：あいち海上の森センター職員・海上の森の会

概況



森林整備Ⅲ

講師：あいち海上の森センター 職員

1限目（講義）

1. 人工林の施業

森林施業として、造林、下刈り、除伐、枝打ち、間伐、主伐についての説明がなされた。

「造林」は地ごしらえの後、1haあたり3000本～4000本、苗木間1.8m～1.6mで植栽される。「下刈り」は7年目頃まで年1回～2回行われ、つる切りも必要である。「除伐」は12年目頃に行われ、目的樹種以外の侵入樹種を中心に除去する。「枝打ち」は無節の良質材の生産を主目的とし、間伐の前後に3又は4mの整数倍に打ち上げられる。「間伐」は15～35年目頃に3回行われ、下層間伐、上層間伐、優勢木間伐、機械的間伐があり、間伐は森林生態系を維持する技術である。「主伐」はスギで40年、ヒノキで45年以降に木材の用途に合わせて行われる。

2. 間伐の考え方

間伐の目的は、林業面では通直で完満な節がない丸太を取ること、環境面では光条件の改善であり、「林分密度管理図」が用いられる。最多密度曲線、自然枯死線、等平均樹高線、収量比数曲線(Ry)、等平均直径線が示されており、将来の林分材積の推定、間伐後の「将来の林分材積」の推定などができる。しかしながら、林分密度管理図の数値は誤差が生じる場合もあるので、目安として利用することが大切で

ある。

DVDによる講義では、「安全な間伐作業」、「風害木、雪害木の安全な処理作業」についての紹介がなされた。

2限目「林業労働災害と森林整備活動における安全」(講義)

林内において作業をする際は、まず服装を整える必要がある。ヘルメット、長袖、長ズボン、手袋、ノコギリ、ナタ、軽登山靴や地下足袋、リュックサックを着用し、正しい服装を心がける。また、スズメバチやアシナガバチ、マムシやケムシ類、ウルシ類、ノイバラやススキの仲間は危険となるものなので、注意が必要である。

ノコギリなどの道具の使い方や、枝打ち・伐木の手順や方法はしっかり守らなければならない。作業方法を誤ると事故につながり、死亡事故になってしまうこともある。かかられている木を伐倒することや、上下作業は決して行ってはならない。

DVDによる講義では、「かかり木処理作業の安全」、「大径木にみる伐倒の工夫～安全で優れた熟練技能者の技」についての紹介がなされた。

その後、総括がなされた。